

## 第1次選考を終えて

大橋 芳明

全国から寄せられました 1,191 句一つひとつの情景を目に浮かべ懸命に選句させていただきました。投句された方の年齢を見ると、60 歳以上が全体の 46% とほぼ半分を占めており、孫とのやり取りや、息子、娘の子育てを客観的に見つめる句が多く揃いました。

遠くから見つめる山は美しいのですが、近づくと石がごろごろと行く手を阻む・・・「遠美近醜」という言葉があります。子育ても終わってみると懐かしく、楽しい思い出の方が断然多いと多くの子育て卒業生が実感しているに違いありません。一方、その渦中にある世代の方々にとって子育ては時に地獄を味わうことでしょう。とは言え、子育て真最中にあっても距離を置いて寝顔を見れば昼間の悪戯や一日の疲れも吹き飛ばすほど愛おしく頬ずりしたくなるはずです。こうした「遠美近醜」の子育てが古来繰り返されて来たのだと思います。

老境に差し掛かった身としては、すべての子ども達が安らかに、幸せに育つて欲しいと思うのですが、今年も耳を覆いたくなるニュースが幾度となく飛び込んできました。誰もが育児のプレッシャーやストレスから身勝手な行動に走る可能性があるのですが、「近醜」にめげず、「遠美」の時間を少しの間だけでも持っていたいただければ、その時川柳の一つでも吐いていただければと選者として願うばかりです。

前置きが長くなりましたが、選句に当たっては「子育て川柳」と銘打っていますから「確かにそうだなあ」と共感できるものの、定型の 5・7・5 の 17 音に収まらないものや、同類の発想・同類の句は抜くことはできませんでした。とは言え、1 次選考に託されたミッションは 16 句を選び出すこと。1,200 句近い応募句ですから句意は同様でも表現の良否で判断せざるを得ませんでした。例えば、「寝顔見て明日もわたし頑張れる」、「一日の疲れをいやす子の笑顔」と言う句がありましたが、「スポンジのように疲れを吸う寝顔」に軍配を上げた次第です。ただ、表現の良否は極めて主観的なものですから絶対なものではありません。恐らく他の選者であれば結果は全く異なることになるでしょう。ですから、選に漏れた方も結果にとらわれずこれからも家族を見詰める川柳をどしどしお作り下さい。

「子育てあるある川柳」の第1次選考を仰せつかって今年で5年になりますが、子への思い、孫への思い、家族への思いを川柳に託して下さる方々が全国にこのようにたくさんいらっしゃることにいつも感動を覚えております。そうした皆様と川柳を通して子育ての素晴らしさを共感できたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。